



—東地中海地域ニュース—

シリア：米国の対シリア制裁延長

(5月10日付ティッシュリール紙)

10日付ティッシュリール紙（政府系）は5月7日に発表された米国の対シリア制裁延長についての社説を1面に掲載している。なお、この記事はシリア政府系メディアとしては初めて制裁延長について言及したものである。概要は以下の通り。

1. 米国の前政権が犯した孤立、制裁、包囲政策という過ちを直視する事でしか出口は見えてこない。
2. 新たな米政権は、対話を採用し、開始することで前政権が行った愚かな政策からの転換を約束したが、今回の対シリア制裁延長を見れば、その結束が果たされる事はなかったことが明らかである。その言葉はまるで単なる選挙スローガンであったかのようなものである。オバマ政権は言葉を行動へ繋げることが出来なかったのだ。
3. シリアは米政権が約束したこと、米国代表団がシリアを訪問し伝えてきた事、そして新たに米政権が導き出そうとする結果をつぶさに見守ってきた。このシリアの視点は、シリア及び地域の問題に関する包括的理解を重視するシリアの立場を示すものであり、国際関係とその役割を理解し、平和と安定を実現する枠組みである。従って、シリアは米国の意図を確かめるために継続的な対話に参加してきた。
4. シリアは、米政権がイスラエルの圧力に屈せず、シオニストがシリアに関して数々の嘘を並べ、過激なイデオロギストであるかのようにシリアを標榜する政策をとっていることに惑わされないよう望んでいる。

【補足情報】

シリア・米国関係（2008年9月～2009年5月）

- 2008-09-26 国連総会に参加しているシリアのムアッリム外相は、ライス国務長官と会談した。シリア側は、米国側の要請による会談とした。両者の会談は2007年11月にイスタンブールで開かれたイラク周辺国会議での会談以来2度目と報道された。
- 2008-10-26 イラクの米軍特殊部隊は、シリア・イラク国境付近で、シリア側に8キロ入った地点のアル・カイダ拠点を攻撃したと報道された。Abu Kamal 付近の

Sukkar iyeh 農場にある建設中の民家を攻撃。ヘリ 4 機が投入されシリア人 8 人が死亡。シリア政府は、深刻な侵害だと非難。

- 2008-10-28 シリアは、ダマスカスのアメリカ・スクールと米国文化センターを閉鎖。
- 2008-10-29 シリアのミクダード副外相は、イラクがシリア攻撃のために使われない保証を要求し、米軍の越境攻撃が再発する場合は、シリア・イラク国境での治安協力を停止すると述べた。米国大使館は、30 日に抗議デモが予定されており、30 日閉鎖すると発表。シリアは、米国文化センターの即時閉鎖とアメリカン・スクールを 11 月 6 日まで閉鎖するよう公式に要請。
- 2009-01-30 シリアのバッシヤール・アサド大統領は、ダマスカスを訪問した米議会代表団と会談し、米国との対話を実施されることへの期待感を表明した。
- 2009-02-06 シリアのバース紙は、シリア航空が同社の保有する 2 機の B-747 の修理に必要な輸出許可書をシリア政府が米国から取得していたと報道。同 2 機は、経済制裁で修理ができないでいた。
- 2009-02-10 ティシュリー紙は、米国ワールド・トリビューン紙の記事を引用し、オバマ政権が近く、駐シリア米国大使を任命すると報じた。オバマ大統領は、クリントン国務長官と調整のうえ、フレデリック・ホフ氏を駐シリア米国大使として任命することを決定したとされた。同氏は現在、米中東政策会議国家諮問委員会のメンバー。元軍人でミッチェル中東和平担当特使とも近い間柄。
- 2009-02-21 シリアの国営通信 SANA によれば、バッシヤール・アサド大統領は同国を訪問したケリー米国上院外交委員会委員長と会談、対話こそが問題解決の方策であると述べた。
- 2009-02-26 シリアのムスタファ駐米大使は、ワシントンでジェフリー・フェルトマン米国国務次官補代行と会談、両国関係を改善する方策や共通関心事項につき協議した。同大使は、会談後、シリア国営通信社に対する声明の中で、今次会談が問題解決策の模索に集中し、双方が様々な議題につき対話を継続するためにこれからも階段を設けることに合意したと述べた。
- 2009-03-07 米国国務相の特使であるジェフリー・フェルトマン国務次官補代行とダニエル・シャピロ・ホワイトハウス職員がシリアを訪問。フェルトマン国務省次官代行は、ムアッリム・シリア外相と会談し、同会談が極めて建設的であり、ワシントンとダマスカスに共通理解を促す土台があったと述べたが、過去数年来の緊張関係がすぐに緩和されるとの見通しは表明せず。
- 2009-03-28 在シリア米国大使館報道官は 5 ヶ月閉鎖されていた米国文化センターを再開することを発表した。最近のシリア・米国関係改善の兆しのひとつとして。

- 2009-04-05 米国の議員団はシリアを訪問、バッシャール・アサド大統領と会談した。議員団の中には、Stephen Lynch 民主党議員、Bob Inglis 共和党議員が含まれていた。レバノン情勢、シリア・イラク国境の治安状況、中東和平について協議された。
- 2009-05-03 シリアのバッシャール・アサド大統領は、仏国テレビの France 3 に対して、米国のブッシュ前政権を批判し、オバマ大統領がシリアに特使を派遣し、対話再開を決定したことを歓迎した。また、同大統領は、ハマスの影響力は無視できず、ハマスが和平の外に居る限り、和平を達成できない、ヒズボラにしても同様であると述べた。
- 2009-05-07 米国のジェフリー・フェルトマン 国務長官中東担当補佐官は、ダニエルイ・シャピロ・ホワイトハウス職員とともにシリアを訪問、ムアッリム外相と会談した。会談後、フェルトマンは、シリア・イスラエル和平プロセスを含むアラブ・イスラエル紛争のあらゆる和平プロセスにオバマ大統領がコミットしていくことを伝えたと述べた。
- 2009-05-08 米国のオバマ大統領は、シリアが引き続き武装勢力を支援していることに懸念を表明し、ブッシュ前大統領が 2004 年に課したシリアに対する経済的制裁を 1 年間延長することを決定した。同大統領は 7 日に本件に関する 2 つの文書に署名、8 日にホワイトハウスが発表した。シリアからはいまのところリアクションは出されていない。
- 2009-05-09 シリア政府は、米国がシリアに対する経済および外交上の制裁を延長すると決定したことを非難。10 日のティッシュリー紙は、新政権は対話を開始することで前政権の愚かな政策を転換すると約束したが、制裁延長を見れば、その約束は果たされなかったと論評。